

北海道のチカラ「今、私たちにできること～3.11 とともに歩む」 防災と減災をテーマに共感の「ひろばづくり」 チ・カ・ホで約 2,500 人が被災地へ心寄せる

北海道テレビ放送会社（HTB）では、大震災の翌年からアナウンサーたち有志による東日本大震災支援活動「今、私たちにできること」を続けています。6年目となった今年は、去年4月に震度7を記録した熊本地震、また北海道でも8月に大規模な大雨被害が発生したこともあり「防災・減災」をテーマとしました。自然災害ではいつ被災当事者になるかわからない。その思いを込めて、「今、私たちにできること～3.11 とともに歩む」として東日本大震災が起きた同日3月11日に、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）で支援イベントを行いました。当日は約2,500人の人たちが足を止めて下さり、改めて被災地、被災された方々へ思いを寄せる「共感のひろば」が生まれました。

去年に引き続き、被災地の支援活動を個人で続けている元札幌交響楽団首席チェロ奏者の土田英順さんによるチャリティコンサートを実施。土田さんが代表をつとめる「東日本大震災支援 じいたん子ども基金」への寄付を呼びかけたほか、アナウンサーたちが土田さんの伴奏に合わせて震災関連の絵本を朗読しました。また、トークセッションでは、福島県から東川町に自主避難し、防災士の資格をとって震災・防災語り部としても活動する鈴木哉美さん、熊本地震の際に取材にあたった熊本朝日放送の土屋孝博アナウンサー、道庁危機対策局の國田博之さんに「実際に災害に直面したらどうしたらいいのか」についてお話を伺いました。会場には、避難所体験コーナーを設け、様々な防災用品や災害伝言サービスの使い方を紹介。最新の非常食の試食会も行われました。また、東日本大震災が起こった午後2時46分には、会場の皆さんと一分間の黙とうをささげました。

HTBでは、これからも東日本大震災を風化させない、また被災地の現状を伝える取り組みを行って参ります。

